

平成 29 年度 森林研究・整備機構営事業 事後評価 技術検討会
農用地総合整備事業「南丹区域」 議事概要

1. 実施日 平成 29 年 7 月 4 日(火) 13:00～14:30
2. 場所 農林水産省 本館地下 1 階 会議室
3. 出席者 技術検討会委員 浅野 耕太 京都大学大学院教授
飯田 俊彰 東京大学大学院准教授
寺阪 明美 農業生産者グループ アグロスの会
橋本 禅 東京大学大学院准教授
(敬称略、五十音順)
事務局等 農林水産省農村振興局整備部農地資源課調査官 他
国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備センター
農用地業務室長 他

4. 技術検討会の概要

- (1) 委員長の選出
浅野委員を選出した。
- (2) 「関係団体の意見」の報告及び「事後評価書(案)」について
事務局より説明を受け、質疑を行った。
- (3) 意見・指摘等
技術検討会の意見として、次のとおり取りまとめた。

本事業により整備された農用地や農業用道路は、京みず菜や黒大豆の京ブランド農産物の生産拡大をもたらすとともに、集落が点在する本地域の農産物流通の改善、都市との交流に寄与し、地域の活性化に貢献するものと評価できる。

(農用地整備)

区画整理や暗渠排水により、湿田が解消され排水機能が向上したため、機械作業が容易となり、農作業の効率化、営農経費の節減に貢献し、農業法人や担い手が営農する基盤が十全に整備された。

京丹波町の区画整理団地内では、地域の特産物である黒大豆が振興され、京都や大阪方面からの来訪者による黒大豆えだ豆のもぎ取りが実施されており、都市農村交流の場ともなっている。

区画整理に伴う換地により、河川改修に必要な用地が生み出された。なお、本事業と並行して実施された府営事業により、蛇行していた河川を集落から離して山側に移設改修することで、河川の氾濫が防止され農業被害が軽減し、住民が安心して

生活できるようになっている。

（農業用道路）

整備された農業用道路は、中山間地の集落や農地をトンネル等をつなぎ、農産物輸送、耕作者の通作等に利用されており、南丹市においては、市街地に居住し、中山間地のハウスで京みず菜を栽培するという通いによる営農がみられ、新規就農者の増加にも貢献している。

また、地域の道路網の一部として、南丹市園部駅や高速道路インターまでの移動時間短縮、市街地への買い物、通院、通学など日常生活の利便性の向上や緊急搬送の迅速化、都市農村交流の活性化に貢献している。

さらに、大雨時には代替路として機能することから、集落が孤立する心配が軽減し、生活への安心感の向上に寄与している。

（今後の農業振興や地域振興に向けて）

本地域では、良質な水稲が生産されており、京都の料亭に米を直接販売する農家もみられ、京みず菜や黒大豆などの地域特産物についても、さらなる販売先の開拓、需要の掘り起こし、付加価値の創出等、販売力強化と消費拡大を図ることが重要と考える。

（費用対効果の算定手法における課題）

本区域では、農用地整備によりほ場条件が改善されたことによって、水稲栽培の外部委託などが容易となり、事業区域外農地で余剰労力を活用した野菜類の栽培がみられる。しかし、このような変化は、従来、費用対効果分析の対象とはされておらず、実際の効果の発現にも関わらず、効果として取り上げられてこなかった。このような効果が適切に費用対効果分析に加えられるように調査方法や算定手法を検討することが望ましい。

（以上）